



ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 42

★ 利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料を紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問 戦時中の新聞縮刷版の綴じ方が夕刊、朝刊の順になっているのはなぜか。

答 これは、検索では該当するものがないため、参考図書や当時の諸事情が載っている新聞社の社史等で探してみます。

◎夕刊は紙面上の発行日付の1日前に午後に配達され、同一日付の朝夕刊の発行順は、夕刊→朝刊の順番になり、例えば、2日付夕刊(1日午後配達)→2日付朝刊(2日朝配達)となっていました。昭和18年10月11日、夕刊日付を発行日に改めましたが、戦後、夕刊が復活した時、一時翌日付になっていました。昭和26年10月1日再び発行当日付になり、現在に至っています。

- ・『朝日新聞社史 大正・昭和戦前編』(070 A82) 開架
- ・『昭和 二万日の全記録 9』(210.7 Ko19 9) 開架
- ・『新聞集成 昭和史の証言 18』(210.7 Sh59 18) 開架

☆ 当館には、調査の内容、分野によっては資料が少ない場合もあります。その時は、該当する専門機関の図書館にあたってみることも近道です。専門図書館等の情報は、カウンターにお問い合わせいただくか、下記の資料を参考にしてください。

- ・『東京ブックマップ』(R024 To46) 開架(参考)
- ・『専門情報機関総覧 2000』(R018 Se69 2000) 開架(参考)
- ・『調べ学習ガイドブック』(R031 Sh81) 開架(参考) ←児童・生徒向け

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

筆者の家に、毎日のように届く郵便があります。これが古本屋の目録で、古書展の目録と、古書店の目録です。最近インターネットの古書検索サイトが充実してきたので、ネットで古本を買うことも多いのですが、やはり、目録をじっくり読むのは楽しみです。

目録と言っても、神田の一誠堂の目録のような立派なものから、手書きのコピー目録まで、ピンからキリまでありますが、問題は中身で、目録の作りで本の値打ちが変わるものではありません。目録を見ていると、アレ？こんな本有ったかなあ？と思うことがあります。最近も「古書の研究」水谷不倒（昭和9年）と言うのを見つけて、ハテ？。と思ったのですが、とにかく注文したところ、送られてきた本を見たら、ヤッパリ、名著「明治大正古書価の研究」水谷不倒（昭和8年）の改題版でした。もちろん、筆者の書棚には既に有る本です。昔は、出版社が、金策のために、本の刷版を作る紙型を売買する場合があったので、まったく同じ本が違う出版社から出ることも少なくなかったのです。しかし、以前にも書いたことがあるかもしれませんが、再版や、文庫化の際に書名を変えるのは反則ですよ。書名で衝動買いをする筆者としては、早川書房のノンフィクション系の文庫では、何回か引っかかりました。ハテ？どこかで読んだような？。と思いながら裏表紙を見ると、小さな文字で、本書は〇〇の改題です。と書いてあったりすると、チョッとムツとします。

でも、実はもっとひどい例があります。昭和30年代ころには、夜店などで売るために、適当な厚さの古雑誌を何冊かまとめて、まったく関係のない表紙だけを印刷して貼り付ける。という、信じられないようなインチキ雑誌があったのです。こんなものは、今では古本屋にもあまり並ばないので、忘れ去られていますが、たまたまどこかの図書館で手に入れたら、まじめな図書館員はきっとデータがわからずに悩むかもしれませんね。
(午睡)



—図書室から—

日々の寒さに冬を実感するこの頃ですが、何やら「鼻がムズムズ、目が…」とよからぬ前兆がチラホラ。風邪か？花粉症か？ そろそろ、うっとおしい季節がやってきます。

* 2月15日（土）～28日（金）まで休室します。

4階図書室及び5階映像・音響室は資料整理のため休室します。ご了承ください。

なお、6・7階常設陳列室、1階の「懐かしのニュースシアター」は通常通りご覧になれます。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 42

2003年1月22日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1